

9がっのくもの子の会だより

〈11.29.8.25〉

今年の夏の暑さは、また違った、厳しいものでしたね...
朝晩すいぶん涼しくなってきた。季節の変化を感じ始めています。日中は、まだまだ残暑が続くので(う)から、もう少し暑さ対策のからだで、がんばりましょう。

～メリハリをつけた愛情を注いでください～

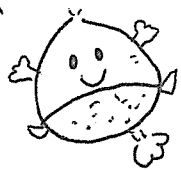
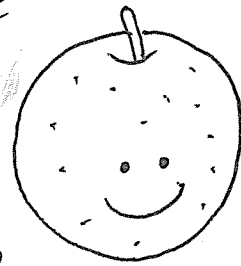
あなたは今までに、子どもが嫌がるほど強くキツと抱きしめたことがありますか？

幼少期の子どもを抱えているご両親は、自分の子どもを中途半端に抱きしめるのではなく、時折り、思い切、て抱きしめてあげてください。子どもが腕の中でじじはたはしても、子どもを包み込んだ腕を決して離さないでください。

親は子どもに遠慮する必要はありません。愛情を注ぐときは思いきり抱きしめる。叱らなければいけないときは、思いきり叱る。一生懸命頑張ったときは思いきりほめる。これが子育ての基本です。

子どもに自信を育てたいのです。「絶対、最後までお前達を見捨てない」という意思表示で「私には心から愛してくれる人がいる」という自信を育ててください。

愛情に満腹になった子ども達は、自然と一人歩き出します。



「家族に支えられている」という自信を持った子ども達は、自分のやりたいことを探します。子どもを育てた親自身も「やるだけや、た」という満足感が得られず、子どもにしがみつくことなく、自分の道を求めるはずで。

逆説的に聞かせるかもしれませんが、「子どもが嫌がるほど抱きしめる」とことは、親の自立、子の自立を促す大きなカンフル剤なのです。

「急かすな」と格言通り、親がちょっと立ち止まり、子どもにその年齢に合った愛情をたっぷり与えてあげる。これが子どもが親から精神的にも経済的にも離れ、社会で逞しく自立していく本当の「近道」です。

(中略)

子供時代はその時しかありません。一歳から二歳へ、二歳から三歳へと切り流れていく子どもの時間。

それを子どもから取りあげてしまつたのは、「自分の子どもは」という親の過剰な愛情と期待です。何でも効率的に、という大人の時間の流れの中で子どもを育てた結果、世の中の歯車も歪んで動かさだしてしまつたように。

早期教育をすることでひ弱な秀才は育つかも知れませんが、しかし、大人のペースでいかなる要求を課す早期教育から、大多数の普通の子どもには本来の「子どもの時間」が失われるだけで、メリットはないはずで。

(2枚目へつづく)

それよりは、その年齢、年齢でし、かりと愛情を注いであげることの方が大切です。それも頭で考へた愛情ではなく、むしろ心で感じる動物的な愛情で。

大事なのは、親御さんや子供を叱りまくる大人達や社会は、自分の生き方や生き様をお手本として子供にし、かりと見せていくことだと思ひます。つまり、「格好悪い親!」「格好悪い大人!」と思われようと、大人になれば、子供達はきちんと理解し、評価していきます。私達がそうだと、たまたま。

確かに、子育ては大変なものですが、誰もが思ひ通りには育っていかないと思ひます。しかし、思ひ通りに行かなくても当たり前だと少し開き直して見てください。親が「いいもの」「正しい」と思ふことをシンプルに伝えていけば必ず子供に伝わります。だから親は日々自分で行うべきことを実践していくことに尽きると思ひます。(後略)

<骨太の子育て(上田早苗)より>

(前略)平成9年にフリースクール「上田学園」を開校。不登校や引きこもり状態の生き方に悩む子どもたちの教育に打ち込み、現在に至る。



◎ 斎藤公子さんのリズム遊び講習会へ2日間(2日間)に渡り行ってきました。斎藤公子さんが七十年前の25年前にも、直接指導を受けることができ、沖縄へも数回行ったことが、今回は、熊本にて、その関連の講座が行われるとのことで、限定の貴重な場には、再び参加することができました。

斎藤公子さんがどの子も差別せず、弱い子とか、障害をもつ子をいじわり、一人一人の子の発達を支援するために、発達の筋道に即してや、てなれたこと、斎藤公子さん自身を育つたお母さんの教育方針やその環境が、(おにがましのことが)私の育つた環境と重なるところが多いなあと思ひます。

私の母が立ち上げたデポの会の障害をもつ子ども達に、無償の愛で懸命に支援つづけていた母の姿と斎藤さんが重なり、母の育て方と斎藤公子さんのお母さんの育て方も同じところがあり、母の教育の意味にも、斎藤さんの学びを通して、気がつく時。「人間として何が大切か、人間として生きる力を」と、ふれながら、てなれた思いも、共感していることですが、88歳でなくなる当日まで現役で活動されたいとつづけてきたことには、(ほんとすごいなあ)と改めて感じます。

斎藤公子さんのリズムや、保育論、実践で、伝えたことについて、「もうしばらくしたら、時代が斎藤さんにおいつくことでは」と、脳科学者の小泉英明さんも語られています。中でも、リズム遊びは、子どもの全面発達(0~年長、障害をもつ)人間の身体(足先から頭、脳、心)において、深い理論と重要性があることは、私も、リズムに出会って28年、実践してきたことで、実感しています。現代の状況だからこそ、ますますリズム遊びは、必要だと思ひます。